

みるみる！ ろいやるん！

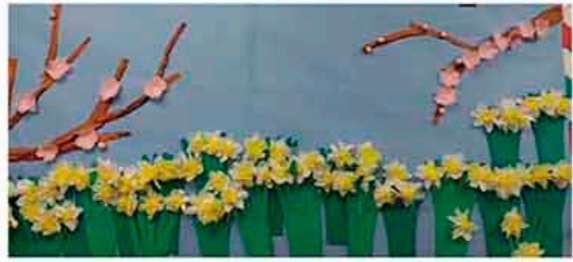
季節を彩る作品づくり

リハビリでは作業療法の一環として、季節に合わせた作品を患者様と制作しています。

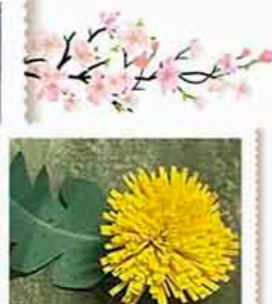
1月～2月にかけては、「水仙」と「梅」を組み合わせてどこか懐かしい早春の原風景をイメージして患者様と一緒に作品づくりをしました。それぞれパーツごとに、少しずつ患者さまができる範囲で作成したものを、患者様と一緒にセラピストも交えて和気あいあいと貼り合わせて、良い作品が出来上がりました。



早春の風景づくり



3月4月には、各病棟と通所リハビリでそれぞれ作成した「さくら」のパネルを下記日程で展示させていただいております。7作品どれも力作ですので、ご来院時に楽しんでいただければと思います。



3階病棟の作品。細部までこだわっています

(文/作業療法士 石黒)

展示期間

正面玄関ホール 3/25(月)～4/7(日)
※4/8(月)からは各病棟・リハ室に
展示させていただく予定です。

お知らせ

感染対策強化月間を継続!

当面の間、感染対策強化月間を継続していきます。

編

集

後

記

数年前40歳を迎えた私は、記念に何か新しいことをやってみよう!と思い「海外一人旅」を決行しました。行き先は街並みの素敵なオランダ&ベルギー。ワッフルやムール貝などの食を楽しみながら、キンデルダイクの風車群やアンネ・フランクの家を巡りました。道中、ホテルの金庫の鍵が開かなくなるハプニングに対応したり、地元のご婦人から殻を使って食べる上手なムール貝の食べ方を教わったり、ローカルバスに揺られながら現地の暮らしを肌で感じたり…。当時、特に衝撃を受けたのは国際線のセルフチェックインで、手続きを踏むと自身の携帯電話がそのまま飛行機の搭乗券になるという電子チケットの導入でした。

かくして、不安と期待の入り混じった私の久しぶりの海外&一人旅は、とても刺激的で忘れられないものとなりました。

年を重ねるごとに思考や行動は保守的になりがちですが、新しい物事への関心や挑戦は脳を活性化させ、認知症予防に効果的と言われています。患者様にもレクリエーションなどを通して新しい物事に触れて頂き、認知症の予防・進行の抑制を図っていただけたらと思います。

(文/介護福祉士 水上)



vol.74

令和6年
4月発行

所沢ロイヤル病院

はなみずき

病院理念

私たちは安全で良質な医療、
心のこもった看護・介護、地域社会との連携を目指します。

相談は
私たちに



認知症ケアチーム始動

左から：地域連携部 大久保、薬剤科 岩城、藤本医師、
認知症看護認定看護師 副師長 小西、作業療法士 主任 金子

発行

医療法人 啓仁会 所沢ロイヤル病院 [広報委員会] はなみずき編集部
〒359-1152 埼玉県所沢市北野三丁目1番地11 TEL:04-2949-3385 FAX:04-2949-7872



新しいチーム医療が加わります ～安心して生活できるようなケアを提供するために～



高齢化に伴い、認知症に対する関心もさらに高まっており、2023年には認知症基本法も制定されました。認知症の人が尊厳を保持し、共生できる社会の実現が期待されています。当院でも認知症ケアチームを発足し、毎週水曜日にチーム回診を始めました。

認知症ケアチーム発足にあたり



医師 藤本 定一

チームが作られました。当面は病院内でスタッフの依頼を受けて、対策を検討し、アドバイスします。私以外のメンバーは、みな若くて優しい認知症ケアに習熟した多職種の方々です。どうかよろしくお願ひします。

今月の2月から「認知症ケアチーム」を担当することになりました。

内科医で脳・神経を専門にしています。“大船に乗った気持ちでご相談ください”と言いたところですが、今年で74歳になります。自分も認知症の“適齢期”に入り、他人ごとではありませんが、同じ目線でしっかりと対応させていただきます。近年、認知症の方が増え、2025年には65歳以上の4人に一人が認知症になると言われています。独居や高齢者二人世帯では様々な状況で支援が求められますが、認知症もその一つです。

わたしたちの病院でも対応が難しい場合があり、認知症ケア



当院で入院されている方にはご高齢の方が多くいらっしゃいます。私は認知機能低下がある方へ適切なケアを提供するために認定看護師教育課程を修了し、この度、認知症看護認定看護師の資格を得ることができました。

認知症ケアチームには、医師・認知症看護認定看護師・社会福祉士・リハビリ・薬剤師が参加しています。多職種で関わることで、今まで以上に心身の状況把握とともにその人にとって生活しやすい環境を考えることができるようになりました。高齢になるにつれ、視力、聴力、筋力、認知機能などが低下し、日常生活を困難にしていることがあります。一人一人の方と丁寧に向き合い、困っていることは何なのかを一緒に考え、安心して生活できるようケアの実践や環境調整を行っていきたく思います。

(文 / 認知症ケアチーム 認知症看護認定看護師 小西)

認知症ケアチームでは多職種が連携して支援を行っていますが、中でもリハビリ職の強みとしては、認知症という病気だけではなく、認知症の方の個性やその人らしさ、生活史や取り巻く環境の情報まで考慮した上でサポートできることだと考えております。日々の関わりの中で、認知症の方の満たされていない心理的ニーズを把握し、チームで共有して解決策を提案することで、認知症の方が生活の中で困っていることを少しでも解決でき、笑顔が増えるように支援していけたらと思っております。

(文 / 作業療法士 金子)



患者様が服用されているお薬で興奮やせん妄の原因、食思不振の起因の有無を確認し患者様が本来持っている機能を低下させる事が無いように気を配りたいと思います。また夜眠れず騒いでしまう等の問題解決に向けて薬の必要性を話し合い、患者様やご家族が安心して薬物療法を受けていただけるように尽力してまいります。

(文 / 薬剤師 岩城)



認知機能の低下により退院後の生活に不安を感じている患者様やご家族の相談に対応しています。

介護保険申請や福祉サービスの情報提供を行い、ケアマネージャーをはじめとした地域の社会資源と連携を図って、生活の再構築の支援をしていきます。認知症があってもその人らしく過ごせるよう、努めてまいります。

(文 / 社会福祉士 大久保)



新たな門出を応援しています



今春、外国人留学生として介護の勉強をしていた2名が晴れて、介護職員として正社員で働き始めます。コロナ禍で、日本への入国も懸念されている2年前に日本にきました。受け入れる病院側も初めてのことで、右往左往することもありました。病棟もどのかかわればよいか迷うことも多い中、温かく支援してくれました。なにより2人の努力がありました。日本の生活に馴染み、働きながら、介護の勉強と日本語の勉強などなど大変なことだったと思います。

これからは、正社員となり、今まで以上に患者さんに真摯に向きあってくれることを期待しています。さらに、4月からは先輩として、あらたに就職する外国人特定技能生のお手本になることを期待しています。

当院の介護にあらたな力が加わります。より一層みなさまに「こころのこもった看護・介護」を実践してまいります。

(文 / 看護部長 吉村)



卒業式には
看護部長と事務長も
参列しました。

